

教科	地歴・公民科	科目名	地理総合	単位数	2
学科	全学科	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	わたしたちの地理総合改訂版(山川出版社) 新詳高等地図(帝国書院)				
副教材など	わたしたちの地理総合改訂版ワークブック(山川出版社) 基本ワーク社会(増進堂)				

1. 科目の目的

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 授業の内容と進め方

教科書と地図帳を使用しながらの講義形式の内容と、発問に対して個別、ペア、グループで考え、表現する形式の内容を並行して行う。図表やICT機器も使いながら視覚的に理解できるように進めていく。

3. 学習する上での留意点

重要語句として登場する語句は、中学校で既に学習した内容が多くあるので、高校の教科書より平易な表現がなされている中学校の教科書を見るなどして振り返る習慣をつけてほしい。また、2年次・3年次に履修する「公共」・「歴史総合」の学習に役に立つ知識や技能・考え方も多くあるため、それらをしっかりと習得し、他科目との関連を意識しながら学習に臨んでほしい。

4. 課題等について

習得すべき地理的な基礎知識について、考査前にプリントを配布し、適宜小テストを行い、理解度を図る。また、考査後には振り返りシートを作成させ、知識の定着や思考の深化を図る。
また、長期休業中には、中学社会レベルの知識についてのワークを解き、訂正する課題を課す。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技能	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	地理的諸事象を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、それらを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	地理的諸事象について、よりよい社会の実現を視野にたてて見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めている。

6. 評価の方法

評価については、定期考査での成績、課題プリントや訂正ノートの提出状況や授業態度を総合的に判断する。

- 1) 定期考査(年4回実施)の結果をもとに、学習内容の理解度、定着度を評価する。
- 2) 学習意欲や学習態度など授業・家庭学習への取り組みを評価する。
- 3) 課題プリントや訂正ノートなど提出物の内容および提出状況を評価する。

《指導計画》 科目名 地理総合

1 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1章 地図とGISの活用 1節 球面上の世界と地図の活用 1 球面上の世界と地図 2 時差と生活 3 世界地図でとらえる地球 4 国家の領域と海洋の役割 5 日本の位置と領域 6 身のまわりのさまざまな地図 7 地図とGIS	<ul style="list-style-type: none"> 球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 国家の3要素や国境のなりたち、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化を踏まえ、紙の地図とデジタル地図の違いや用途を理解し、活用する。地球儀ソフトや地理院地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。 日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する技能を養う。 	授業用プリントの取組状況 行動観察
	5	2節 国家間の結びつき 1 国家群による結びつき 2 貿易による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 観光による結びつき		授業用プリントの取組状況 行動観察 課題提出 中間考査
	6	2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化 1 地球上の地形のなりたち 2・3 山地と平野/海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候 アフリカ 6 乾燥した気候 サウジアラビア・モンゴル	<ul style="list-style-type: none"> 地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を捉え、写真や地形図によって読み取る技能を身につける。 大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、諸資料から考察する。 	行動観察 課題提出 授業用プリントの取組状況
	7	7 季節の違い 大陸の西岸と東岸 8 寒冷な気候 シベリア		期末考査
二 学 期	9	2節 言語・宗教と生活文化 1 世界の宗教 2 仏教圏の生活文化 3 キリスト教圏の生活文化 4・5 イスラム圏の生活文化/地域性 6 世界の言語 7 植民の歴史と生活文化 ラテンアメリカ 8 多文化共生の実現 オーストラリア	<ul style="list-style-type: none"> 世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係について、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また、言語・宗教の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題について、多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。 	課題提出 行動観察 授業用プリントの取組状況 中間考査
	10	3節 産業の発展と生活文化 1 農業の地域性 2 農業と生活文化 南アジア 3 工業の発展 4・5 工業の発展による変化 中国 6 工業の発展と国際分業 東南アジア 7 脱工業化の動き 韓国	<ul style="list-style-type: none"> 世界の産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域として、主題図や写真などの資料を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を考察する。 	
	11	4節 グローバル化の進展と生活文化 1～3 グローバル化の進展と課題 アメリカ 4～6 地域統合による変化 EU 3章 地球的課題と国際協力 1節 人口問題 1 世界の人口問題 2 自然増減にかかわる人口問題 インドとスウェーデン 3 人の移動と難民問題 4 少子高齢化と人口減少 日本 2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 世界の水問題 3 食料不足の問題 アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> EUやアメリカで起こっているグローバル化の様相について、その現状と課題を理解し、問題点の解決方法について考察する。 人口問題を世界的視野から理解する。また、各国の人口政策や諸問題について比較し、理解を深める。 食料問題と人口問題を関連させて理解する。その際、モノカルチャー経済や気候変動などの背景的要因も捉えながら、グローバル・ローカルな視点から解決の方策を構想する。 都市問題についても写真などから判読する。また、途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し、その構造的要因を考察する。都市問題を解決するための都市政策や科学技術の事例に触れながら、解決の方策を構想する。 	授業用プリントの取組状況 行動観察 課題提出 期末考査
	12	3節 居住・都市問題 1 世界の居住・都市問題 2 人口集中による都市問題 メキシコシティ・ジャカルタ 3 都市の再開発 ロンドン・ニューヨーク		
三 学 期	1	4節 資源・エネルギー問題 1 エネルギー資源の産出・消費と課題 2 鉱物資源の産出と消費 南アフリカ共和国・オーストラリア 3 再生可能エネルギーへの移行 5節 地球環境問題 1 地球温暖化 2 熱帯林の減少 アマゾン・東南アジア 3 砂漠化の進行 サヘル・アラブ海	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー資源の偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取り、その持続可能な利活用と安定供給の実現のために必要なことについて考察する。 環境問題の仕組みを構造的に理解し、持続可能な発展の実現のために、国際的な協力体制や、その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また、自分自身とのつながりを意識し、SDGsを意識した具体的な取り組みを構想する。 日本の地形や気候について、諸資料から理解する。また、さまざまな災害などが発生することを捉え、要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。ハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身につける。 地域調査の一連の手順を理解し、さまざまな調査方法を活用する。身近な地域の課題を見いだし、その解決策を考察・構想する。得られた情報を多面的・多角的な視点からまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想する。 	課題提出
	2	4章 生活圏の諸課題 1節 自然環境と防災 1・2 日本の地形・気候 3～5 気象災害/火山/地震・津波と防災		授業用プリントの取組状況 行動観察 課題提出
	3	6 都市特有の災害と防災 7 防災・減災への心構え 2節 持続可能な地域づくり 1 生活圏の課題の発見 2～4 地域調査 尾鷲		期末考査